多元横浜読書会　　No.23－4－6

清水　淹（ひさし）

＜今回＞327回目　2023年4月10（月）14時～17時　602会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」 再読　p446、10行目このような　より

＜前回＞326回目（23－3－27）出席者6名

資料1）~~（2－－3－1）~~前回（23－3－27）のまとめ（清水）

A 報告　古田史学の先達であった河口秀樹氏（弥生台）が肺がんのため亡くなられたことが榛葉氏より報告された。東戸塚の古代史講座の主唱者で、古田武彦氏の日本の新しい古代史のみならず、新しい視点を教えて下さった恩人であった。清水の大腸がんの見舞いにしては、長い電話をもらって、悪い予感を感じたが、こんなに早く亡くなられるとは思いもしなかった。

三井不動産を退職後、東京の経営者協会の会合（会社顧問中心）で古田史学を紹介したのが最初で、古田先生の著作物を買って読んでいただくのが最善だが、特に最初の初期 3 部作品を基に、10から 12 回用の項目の講座用の資料を作り、おひとりで横浜地区の公的な場所（地区センターや老人ホームなど）で聴講者を募集して、抵抗感の強い古田史学の普及を目指して孤軍奮闘されていた。私も「多元の会」に入会したてのころだから主旨に共鳴して、一緒にやらせてもらうようになった。人に話をすることは何回しても自分の勉強になる。親鸞研究で学者としての地位を獲得されていた古田先生が日本古代史に取り組むときに、何人の方からか忠告されたそうだが、それだけ相手は学問の集団ではなかったのであった。と河口様から教えてもらったような気がする。それが学者相手ではなく、大衆相手の講座に、できる範囲内で最善を尽くす。講師も受講者も、真実の古代史を明らかにしたいという古田先生に共鳴した活動だった。多趣味で絵画も、バレイの音楽も舞踊も紹介してくれた。~~が~~

B

書式変更: インデント : 左 : 0 mm, ぶら下げインデント : 1 字, 最初の行 : -1 字

C 読書　p442　三面の史料から

1）百済本記の日本府の日本は九州王朝の創唱期の称号ではないか、6世紀当時の百済が列島の倭人たちの組織を日本（ひのもと）と呼んだ。（前ページの要約）

2）任那日本府の名前は日本書紀に引用されている百済本記が作り出したもので、当時の名前は不明というのが井上秀雄の論である（任那日本府と倭341p）が近畿日本と関係つけようとする苦肉論である。（同上）

3）三面の史料（日本側史料、朝鮮側史料、中国側史料）。日本側史料はイ百済本記（6世紀末）とロ百済本記にもとづく本文。朝鮮側史料とはイ三国史記（1145年成立）とロ三国遺事（13 世紀末成立）

4）中国側史料は南朝の①宋書（420から479年））②南斉書（479から502年）③梁書（502から557年）④陳署（557から589年）。北朝の統一⑤隋書（581から618年）　日本史料の内実は朝鮮側史料である。日本側史料の中に固有のものは皆無だ。この点津田左右吉、井上秀雄などの鋭い研究者に大和朝廷の朝鮮経営を示すものという命題に疑いをいたかせる根本原因があった。この点この疑いは正当だった。

5）「日本府」架空説　「百済本記」の直接引用部分は書紀編者が改変した様子がまったくない。対して本文の方は違う。国家関係の上下関係は造文されている（呉からの**朝貢**、七枝刀の**献上**）。三国史記（高麗仁宗、1145、日本近衛天皇久安元年）金富軾、50 巻。三国遺事（高麗忠列王　1275～1308）は僧一然が撰した。

2~~2~~023年 4 月 24 日（月）　14時から17時　602会議室

5 月 15 日（月）　14 時から 17 時　601会議室